

北九州での俳句普及のこれから

館長 今川 英子

「全国俳句大会in北九州」久女を育み、多佳子を生んだ俳句の地」がこの二月末、第二五回大会を最後に幕を閉じました。

第一回大会は二〇〇二年三月三日、「全国女性俳句大会in北九州」として開催。北九州が俳句の盛んな土地柄であり、中でも女性俳人の草分けともいわれる杉田久女や行橋出身の竹下しづの女、久女に手ほどきを受けた橋本多佳子を輩出していることから、この街の文化発信と俳句普及を目的に企画されました。

選者は、現代俳句協会、俳人協会、伝統俳句協会から著名な女性俳人二名ずつ（当初は宇多喜代子、寺井谷子、西村和子、橋本美代子、坊城中子、山田弘子）が務め、投句も女性に限られました。

第四回大会から当日投句ができる吟行コースが加えられ、俳句と久女との出会いとなる多佳子の住まい跡櫓山荘公園や文学館のほか、北九州市のイメージ向上にもつながる名所・旧跡を選者も一緒に訪れ、多くの秀句が生まれました。

第一六回（二〇一七年三月）からは、投句者の性別は問わず、大会タイトルも現在のそれに変更となり、事前投句数は二千句から三千句。吟行参加者は百人を超えていましたが、コロナ禍以降は減少します。

二五回の大会継続は、偏に地元俳人・寺井谷子さんの尽力と、歴代選者の方々の熱意と協力、そして担当職員の努力の賜物でした。

一方、「櫓山荘子ども俳句大会」（久女・多佳子の会）や北九州俳句協会による主催）は二一回を迎え、市内近隣の小・中学生から五千句以上の応募がありました（入選句は文学館で

展示）。また民間主催による第一七回「ひびしん俳句大賞」には七千句が集まり、小中学生部門では六千句以上の応募がありました。そのほか各区の地元俳句関係者による若い世代への俳句普及の地道な活動は、AIの時代だからこそ「座の文芸」としての俳句の可能性を未来に、なく重要な役割を果たしています。

ところで俳誌「自鳴鐘」が、第九二〇号をもって十二月に終刊となりました（配本は三月）。

一九三七（昭和一二）年一月、横山白虹により創刊され、一九三九年六月に休刊。戦後一九四八（昭和二三）年六月に復刊となり、主宰を白虹が三八年間、横山房子がその後の二四年間、継承した寺井谷子さんが一八年間務めました。白虹は現代俳句協会会長や、北九州文化連盟会長を歴任、流派を超えた北九州俳句協会の創設など、この街の俳句活動を力強く牽引され、「自鳴鐘」は長くその中心でした。

「俳句」（KADOKAWA）二月号の巻頭五〇句「溪聲山色」は、一昨年文化勲章を受章された本市出身の詩人・高橋睦郎さんの作品です。八十八歳の高橋翁の、逗子での佇まいに想いを巡らします。

コロナ禍以降、俳句界を取り巻く環境は大きく変わり、従来の結社中心の活動に加え、オンライン句会やSNSを通じた発信など、新たな場の創出が問われています。地元俳句結社からに期待します。

さて文学館は、今年十一月一日に設立二〇周年を迎えます。新年度は周年の節目にふさわしく開展してまいりますので、どうぞよろしくご支援くださいますようお願い申し上げます。

目次

○ 巻頭コラム「北九州での俳句普及のこれから」	1	○ 没後八〇年 杉田久女	7
○ 第37回特別企画展	2	○ 引越しました 杉田久女・橋本多佳子記念室	
「原作出版80周年 きかんしゃトーマスの世界展—はたらく機関車たちのおはなし—」		○ 久女忌	
○ トーマス絵本の読み聞かせ会	3	○ 二〇二五年度下半期 徳ぶ会	
○ 第16回「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール	4	○ 共催展予告 第48回光草書道展 高橋睦郎の詩歌	
○ 第57回北九州市民文化表彰表彰式		○ 友の会自主企画「北九州市立文学館文庫」読書会	
○ 福岡ユネスコ文化講演会		○ 「文学館友の会」新規会員を募集	
○ 第17回子どもノンフィクション文学賞	5	○ 展覧会開催予告	8
○ 子どもならではの視点で「櫓山荘子ども俳句大会」		○ 〔第38回特別企画展〕おしりたんてい だいしゅうけつ展	
○ 「アイドルマスター ミリオンライブ！」周遊コラボ企画		○ 〔第39回特別企画展〕森崎和江展（仮題）	
○ 第12回林芙美子文学賞表彰式・記念トーク	6	○ お祝い、お悔やみ／寄贈者・提供者、提供雑誌	



原出版 80 周年

北九州市立文学館
第37回特別企画展

THOMAS & FRIENDS 80

きかんしゃトーマスの

世界展

はたらく機関車たちのおはなし

2025

10.25 土曜日

12.21 日曜日

©2025 Gullane (Thomas) Limited
©2025 HIT Entertainment Limited

※開館時間 / 9:30~18:00 (入館は17:30まで)
※祝日は観覧式のため、10:30から開館。
※休館日 / 月曜日 (祝日の場合は開館、翌日休館)
※観覧料 / 一般 500円 (1400円) 小学生 100円 (80円)
中学生 200円 (1400円)

※主催 / 北九州市立文学館
※協賛 / カママル・インターナショナル、ソニー・クリエイティブプロダクツ、ポプラ社、原鉄道模型博物館
※後援 / NHK北九州放送局、北九州市保育所連盟、北九州市私立幼稚園連盟
※企画制作 / 東映株式会社

北九州市立文学館
Shikoku University Museum

二〇二五年秋は第37回特別企画展「原出版80周年 きかんしゃトーマスの世界展」はたらく機関車たちのおはなし」を開催しました。

「きかんしゃトーマス」の原作、「汽車のえほん」は、イギリスのウィルバート・オードリー牧師が息子のクリストファーに語り聞かせた物語がもととなり、一九四五年に刊行され、これまでに42巻が発行されています（日本語訳は28巻まで）。

絵本からテレビアニメ「きかんしゃトーマス」が展開され、世界中で人気を博し、日本でも一九七三年にはじめて絵本が翻訳され、九〇年にはアニメ放送が始まり、長い間、多くの子どもたちに愛されてきました。

本展では、一章でオードリー牧師直筆の草稿や、クリスマスに息子に贈ったトーマスのモデルになった木製のおもちゃ（複製）や、第一巻『三だいの機関車』と、第二巻『機関車トーマス』収録の「トーマスとゴードン」の絵本原画を、物語とともに紹介しました。

二章では、テレビアニメの歴史を紹介。撮影で実際に使用された模型や、アニメ制作に関する映像等を展示しました。

三章では、原作者が息子のクリストファーとなった27巻以降の原画を展示。あわせて本展の応援サポーターの板垣李光人さんがナレーションで「き

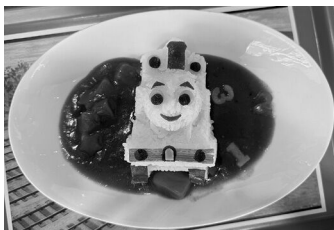
かんしゃトーマス」の名場面を紹介する、ソドー島のジオラマや、木の線路をテーブルの上で繋げていくと、その上に街並みや線路の映像が現れ、トーマスや仲間たちが走ってゆく体験型のデジタルアートの展示など、楽しめる体験型の展示を行いました。

四章では、「愛され続ける、トーマスの世界」と題し、絵本とアニメ以外に、メディアミックスで展開されたグッズや漫画、舞台やテーマパークなどを紹介しました。

また会場ではクイズラリーも実施しました。子どもたちが展覧会を見ながら、楽しそうにクイズの答えを探していました。プレゼントのステッカーも喜んでもらえたようです。

また隣接する中央図書館併設のカフェ・ラポールでは、「ソドー島のお昼ごはん」や「トーマスカレー」などのコラボメニューも提供され、展覧会を見終わったらあとに、お楽しみいただけました。

世代を超えて愛されている「機関車トーマス」。多くの皆様に楽しみなagara、トーマスの世界に触れていただけました。



(資料点数 約二三〇点)

なお展覧会の会期中、北九州市立文学館友の会の皆様には、展示室内の見守り活動でご助力をいただきました。記して御礼を申し上げます。



来場者の声 (アンケート)

- ・とてもたのしくておはなしもあってあそびもあって何回でもいけるぐらいのしかったです。トーマスのもけいがとてもすごかったです。トーマスがいちばん大好きです。 (10歳)
- ・トーマスたちがあんなふうにつくられているのがすごいです。などおもいました。おとうとも1さいでトーマスのことが好きだったのでようこんでいました。 (9歳)
- ・見応えがあり、とても面白かったです。実際のトーマスたちは想像よりもとても大きくびっくりしました。お顔のパーツがいっぱいあり、顔パネルも楽しかったです。子どもは線路とアニメーションのおもちゃにはまってたくさん遊ばせてもらいました。 (30代・福岡市)
- ・子どもの頃模型版のDVDをよく見ていたので実物を見られてとてもよかったです。館内がとてもきれいです。ここをよく見て回れました。(常設展示も) 実物の展示が多くてすごいなと思いました。 (20代・八幡西区)

トーマス絵本の読み聞かせ会

二〇二五年一〇月二六日、十一月三日、
十二月三、四日

(英語) 十一月二九日

読み聞かせグループ「おはなしアリス」(代表・尾場瀬淳美さん)の皆さんが、「きかんしゃトーマスの世界展」会期中に4回、トーマス絵本の読み聞かせ会を行いました。

大型絵本「トーマス きゃくしゃをひく」、テレビ絵本の「こわがりやのきかんしゃ」の二作を中心に、トーマスのクイズや手あそびをまじえて、楽

しくトーマス絵本に触れる会となりました。

また十一月二九日にはCHISAさんによる英語でのトーマス絵本の読み聞かせ会も行いました。

原作絵本第二巻に収録されている「Thomas and Gordon」と、テレビ絵本の「Trouble for Thomas」の二作を中心にクイズ遊びなどをまじえながら、トーマスの原作の言語である英語で、トーマス絵本に楽しく触れる貴重な機会となりました。



おはなしアリスさんによる読み聞かせ会



CHISAさんによる英語の読み聞かせ会

第16回 「あなたにあって生まれた詩」コンクール

二〇二五年二月六日

北九州市立文学館では、北九州市出身の詩人 宗左近、みずかみかずよを顕彰するとともに、子どもたちの豊かな想像力と表現力を伸ばし、未来の詩人・作家が誕生することを願って、「あなたにあって生まれた詩」コンクールを二〇一〇年から開催しています。

第16回目を迎える今年度は、北九州市内外から小学生の部に一六九作品、中学生の部に六四七作品、計八一六作品の応募がありました。

表彰式は子ども図書館大研修室で行われ、最優秀賞・優秀賞受賞者の詩の朗読や、最終選考員の平出隆先生の講評がありました。

受賞者 小学生の部（敬称略）

宗左近賞Ⅱ能美にな（明治学園小学校）
みずかみかずよ賞Ⅱ村上心乙（東神楽町立東神楽小学校）北九州市長賞Ⅱ西本和高（北九州市立守恒小学校）北九州市教育長賞Ⅱ菊地優晴（名取市立増田小学校）北九州市立文学館長賞Ⅱ市江咲彩（北九州市立高見小学校）、佳作Ⅱ10名

受賞者 中学生の部（敬称略）

宗左近賞Ⅱ小笠原快（麻布中学校）みずかみかずよ賞Ⅱ中村きらら（北九州市立松ヶ江中学校）北九州市長賞Ⅱ松本空也（北九州市立松ヶ江中学校）北

九州市教育長賞Ⅱ劉昕萌（九州国際大学付属中学校）北九州市立文学館長賞Ⅱ中川幹（九州国際大学付属中学校）、佳作Ⅱ10名



〈中学生の部〉



〈小学生の部〉

第57回 北九州市民文化表彰表彰式

二〇二六年二月一日

J・COM北九州芸術劇場中劇場 北九州ゆかりの作家 藤野千夜さん、後藤みな子さんが、北九州市民文化表彰を受けられました。（※両名とも北九州市立文学館推薦）

■北九州市民文化賞

藤野千夜さん（文学）

一九六二（昭和37）年、小倉市（現小倉北区）生まれ。漫画編集者として勤めた出版社を退職後に小説を書き始め、九九年、「夏の約束」で第122回芥川賞を受賞されました。

デビュー作から一貫して、ありのまままで生きる人々に温かいまなざしが注がれる作品は、世代を超え共感をもって読まれています。「おしゃべり怪談」、自伝的小説『編集ども集まれ！』、『じい散歩』など著書多数。近年『団地のふたり』がドラマ化されるなどし、新たな読者層を得ています。



右より、藤野千夜さん、武内和久市長

■北九州市民文化功労賞 後藤みな子さん（文学）

一九三六（昭和11）年、長崎市生まれ。七一年、「刻を曳く」で第8回文藝賞を受賞され、同作が第66回芥川賞候補となりました。北九州市顧問、北九州文学協会理事長などを務め、市民への文化の浸透に尽力されました。また、文学館友の会設立時から会長として運営を支えていただきました。

福岡ユネスコ文化講演会

二〇二五年一月二六日

福岡ユネスコ文化講演会「ポーランド回廊の文学（ギンター・グラスからバヴェウ・ヒュレヘ）」を開催しました。講師として立命館大学名誉教授の西成彦氏を迎え、民族や言語が複雑で多様であった「東（中）欧」文学を紹介いただきました。質疑応答も活発に行われ、参加者からは「素晴らしい講演会だった」などの声が寄せられました。



第17回 子どもノンフィクション文学賞

二〇二六年三月二日

この文学賞は、多彩な文学者が築いてきた北九州市の文学の土壌を次世代へ継承していくことを願い、子どもたちが「見たこと」「聞いたこと」、「体験したこと」をもとに調査、取材し、ノンフィクションの文章として描くことで、周りの人々や社会への関心を持つきっかけにしておうと、二〇〇九年から実施をしているものです。今年で17回目を迎えました。

今年度は、北九州市内外から小学生の部一〇九作品、中学生の部に一三〇作品、計二三九作品の応募がありました。



表彰式は文学館交流ひろばで行われ、最終選考委員のあさのあつこさん、最相葉月さん、リリー・フランキーさんにご出席いただき、受賞者の皆さんへ、楯と副賞が贈られました。受賞者の皆さんには受賞の喜びの声を語っていただきました。

最終選考委員の方々からは、受賞作について講評をいただきました。

今年の文学賞の最終選考に残った作品については、本当に読みごたえのある作品が多く、新しい気づきや、発見を与えてくださる作品ばかりだったので、こどもたちはすごいなと思いました（あさのさん）、この賞は小学生のレベルがいつも高いのですが、今回は中学生が素晴らしかった。どの作品にもテーマがはっきりあり、読んでいて教えられることがたくさんあり、書きたいから書いている作品が最終候補に上がってきていて、選ぶのが難しかった（最相さん）、小学生も中学生もとてもレベルが高くて、すごく優秀な作品が残っている中で選ばれた皆さんである。タイミングが違えば皆さんが大賞を受賞する可能性があった（リリーさん）、との感想をいただきました。

また、表彰式には、過去の大大受賞者の先輩である梅田明日佳さん、座間

耀永さんがお祝いにかけてくれました。



右より、あさのあつこさん、最相葉月さん、リリー・フランキーさん、進行 今川館長

受賞作品は過去の作品も含めて、文学館HPで読むことができます。

受賞者 小学生の部（敬称略）

大賞 鈴木愛渚（東洋英和女学院小学部）、優秀賞 石渡雄晨（杉並区立新泉和泉小学校）、藤井晴子（北九州市立日明小学校）、選考委員特別賞 下伊豆芽依（京都市立明德小学校）、小出大伍吉（聖ドミニコ学院小学校）、アラン・カーナ（ペンネーム）（東京都）

受賞者 中学生の部（敬称略）

大賞 宗佑樹（明治学園中学校）、優秀賞 安部愛禾（牛久市立牛久南中学校）、前田海音（藤女子中学校）、選考委員特別賞 谷藤緑（渋谷区立原宿外苑中学校）、ドーソン ソフィー 和奉江（アメリカン・スクール・イン・ジャパン）、新垣結菜（昭和薬科大学附属中学校）

子どもならではの視点で「榎山荘子ども俳句大会」

この俳句大会は二〇〇五年に榎山荘やそこにまつわる文化や歴史を知ってほしいとの思いから、榎山荘子ども俳句大会実行委員会（北九州俳句協会、久女・多佳子の会ほか）の主催で始まりました。

21回目を迎えた今回は、北九州市の小学校、中学校を中心に64校、五五四名の児童生徒から応募がありました。特別賞11作品、秀作36作品、学校賞2校が選ばれました。文学館では、一月一三日から二八日まで特別賞・秀作に選ばれた作品の展示を行いました。

「アイドルマスター ミリオンライブ」周遊コラボ企画

名鉄観光サービス株式会社が実施する「ようこそ北九州へ！ ばります×アイドルマスター ミリオンライブ」のデジタルスタンプラリー、フォトスポットパネル設置会場として北九州市立文学館も参加しています。ライブが開催された三月一四、一五日の二日間の常設展示入館者は約九〇〇人と、文学館の魅力を知っていただく機会となっています。（周遊企画は五月一〇日まで）



THE IDOLM@STER™& ©Bandai Namco Entertainment Inc.

第12回林芙美子文学賞 表彰式・記念トーク

二〇二六年二月二八日
12回目を迎えた林芙美子文学賞の表彰式・記念トークを北九州市立男女共同参画センター・ムーブにて開催しました。
(参加者：三三〇人)

●表彰式

全国から寄せられた七二九編の応募作品の中から、東京都在住の山本莉会さんの「満ちる街」が大賞に、奈良県在住の西岡紗那さんの「もずくとケチャップ」が佳作に選ばれました。(受賞決定後、「満ちる街」は「むこうの景色は知らない」に改題。)

表彰式には、最終選考委員の井上荒野さん、角田光代さん、川上未映子さんが出席されました。

山本さん、西岡さんには武内和久北九州市長から、表彰状と盾、副賞(大賞は一〇〇万円、佳作は一〇万円)が授与されました。

受賞者挨拶で山本さんは、「わたしにとっての文学は、人間の正しくなさを肯定して、それでも生きていっていい、というものだと考えています」「受賞作品と新たな読者とのあいだに、新しい物語が生まれることを願っています」



山本莉会さん

ます」と話されました。受賞作品は初めての小説という西岡さんは、中学生時代に実際に感じた、ある(怒り)を何度も思い出しながら執筆したと話されたうえで、「怒りというパワーが大好きです。これからも糧にして書いていきたい」と述べられました。

講師では、山本さんの作品については「勧善懲悪ではない情景が描かれていて、読みながら考えさせられる。受賞の言葉に通じると思いました」(井上さん)、「あらずじだけ聞くと地味そうな題材でも、最後まで引き込ませて読ませる力が本場にすごい」(角田さん)、「私的な状況と大局的なものとのせめぎあいをうまく同居させながら描く筆力が見事」(川上さん)と評されました。

西岡さんの作品については「人生のその時期にしかない微細な感情を丁寧に描こうとして成功している」(角田さん)、「子どもの無力さをよく書き留めた、『ライ麦畑でつかまえて』に通じる読後感のある青春文学。センスが感じられる」(川上さん)、「大人から見ただ子どもの世界」になってしまわず、少女たちの世界がきちんと保存されたように描けている。ラストも秀逸。本当にいい作品を選ぶことができました」(井上さん)と評されました。



西岡紗那さん

●記念トーク

表彰式に続き、「去年、捨てたもの」をテーマに、最終選考委員の先生方にお話を伺いました。聞き手は今川英子館長が務めました。

はじめに角田さんが「締め切りを捨てた」と話され、会場はざわめきました。依頼を受けて小説を連載をするスタイルを見直し、作品が書きあがったら出版社に持ち込む形式にされ、ストレスは軽くなったそうです。井上さんの「捨てたものは車の助手席」、つまり運転免許を取られたとお話には会場が拍手喝采。「年を重ねるとできないことも増えるけれど、できる間は自分から止めなくてもいいと思う」と、運転にはまだ怖さを感じることもあるけれど、どこにでも行ける感じは楽しいと、笑顔で話されます。川上さんは、完璧主義を少しずつ手放し、気持ちの持ちかたを変えていらつしやるというエピソードを披露されました。

来場者からの質問にもお答えいただきました。「小説家になるために必要なことは何ですか」という質問には、井上さんは、当たり前とされている価値観や倫理観に常に疑いを持つことと答えられました。角田さんは、加えて、沢山読むこと。川上さんは、暗い感情や言葉にならない感覚を手放さないことと話されました。

話題は読書にも及びました。小説至上主義を読まない人にまで押し付けるのは違うという前提のうえで、白黒をはっきりつけられない、言語化できないことに出会う感覚を得られるのは読書ならではの……、との、皆さんの言葉には会場にも共感が広がります。さらに川上さんは、アルゴリズムの支配下

にある動画コンテンツサービスやSNSと異なり、本は受け手の裁量で表現に触れることができる、現在では特異なメディアのひとつなのではないかと話されました。

〈怒り〉のエネルギーのこと、気分転換のこと、捨てられないもの、むしろ増えるものなど話題は広がり、終始明るい笑いに包まれながら、9分におよぶトークでした。最後は川上さんの「これからも(受賞者の)お二人の応援をよろしくお願いします」という言葉で締めくくられました。



右より、川上未映子さん、角田光代さん、井上荒野さん、今川館長

●来場者の声 (アンケート)

- ・受賞者お二人の挨拶がすばらしかった。作品を読むのが楽しみです。(八幡西区・60代)
- ・先生がたや小説がより身近になりました。(福岡市・20代)
- ・たくさん本を読みたくありません。(筑後市・30代)
- ・裁量がこちらにあるという話で、自分がテレビから離れて小説やマンガに時間をかけるように変わったことが腑に落ちました。(小倉北区・40代)

没後八〇年 杉田久女

引つ越しました

杉田久女・橋本多佳子記念室

二〇二六年三月

女性俳句の草分けとして活躍した杉田久女と橋本多佳子は、小倉にゆかりの深い俳人です。二〇一八年一月、訪日外国人旅行者も多い文化施設、小倉城庭園の一角に杉田久女・橋本多佳子記念室がオープンしました。

小倉城庭園は、礼法をテーマにした国内でも珍しい施設です。美しい庭園の四季を感じながら、日本文化を体験することができま

す。このたび、小倉城庭園の展示空間をより魅力的にする取組みの一環として、久女・多佳子記念室も少し場所を移し、再整備が行われました。



杉田久女・橋本多佳子記念室

新しい展示は、久女と多佳子のつながりを象徴する櫓山荘ゆかりの石灯籠などが置かれている城見テラスの近くに一体化され、分かりやすい構成になりました。

新しくモニタも設置。二人の人と作品を伝えるビデオ映像を常時ご覧いただけます(映像は文学館でも常時再生)。※年中無休、四〜一〇月は9時〜20時、一〜三月は9時〜19時 ※一般五〇〇円(小倉城庭園入園料として)

久女忌

二〇二六年一月二日 毎年、杉田久女の命日である一月二日に、句碑のある円通寺で行われます。今年はこの日から久女の没後八〇年がスタートしました。

講話会では、世良俊明さん(久女・多佳子の会会員)が「久女没後80年―その業績の再評価から定着へ」と題して講演されました。



世良俊明さん

二〇二五年度下半期 偲ぶ会

一月一八日

第66回葦平忌

若松区・若松市民会館

三月二六日

第49回森鷗外をしのぶ春の集い

小倉北区・森鷗外京町住居跡碑前

◎記念講演会「津和野町森鷗外記念館の『これまで』、そして『これから』」

講師・大山優子さん(津和野町森鷗外記念館文化施設係長)

お祝い

- 岸原清行さん(俳人)が、令和七年度福岡県地域文化功労者として表彰。
- 朝比奈秋さん(作家)が、第76回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。
- 藤野千夜さん(作家)が、第57回北九州市民文化賞を受賞。
- 後藤みな子さん(作家)が、第57回北九州市民文化功労賞を受賞。
- 藤原新也さん(写真家)が、令和七年度日本芸術院賞を受賞。

お悔やみ

- 小林慎也さん(文学館開設準備委員)二〇二五年一〇月一四日にご逝去。91歳。
 - 増田連さん(俳人)二〇二五年一月二七日にご逝去。95歳。
 - 中原澄子さん(詩人)二〇二五年一月二八日にご逝去。96歳。
 - 竹下文子さん(児童文学作家)二〇二六年三月一〇日にご逝去。69歳。
- 心からお悔やみ申し上げます。

友の会自主企画

「北九州市立文学館文庫」読書会

友の会の新たな取り組みとして、「北九州市立文学館文庫」の読書会が開催されました。六月に開催した第一回以降、二、三か月に一回のペースで開催し、北九州ゆかりの文学作品について、当時の社会、風土などの背景を共有し、自由に感想を述べ合いました。令和七年度は、五回、延べ32人の方が参加されました。

参加者からは、「人それぞれの読み方や感動のポイントがあり面白かった」と好評を得ています。今後も実施予定です。ぜひ皆様ご参加ください。

「文学館友の会」新規会員を募集

友の会活動は、文学や文学館に関心がある人々が集まり、文学・文芸に関する知識教養、理解を深めるとともに、文学館の活動を支援することを目的としています。年間パスポートや特別企画展図録など入会特典も多数あります。皆様の入会をお待ちしています。

【会員期間】二〇二六年四月一日〜二〇二七年三月末(一年ごと)の更新

【会費】一般：二〇〇〇円
学生：一〇〇〇円

【問い合わせ】

北九州市立文学館友の会事務局
(文学館内事務局)

☎093-571-1505

第39回特別企画展

森崎和江展(仮題)

2026年10月24日(土)

▶12月13日(日)

福岡県ゆかりの詩人・作家の森崎和江(1927-2022)の展覧会を開催します。

森崎は、日本統治下の朝鮮で生まれ育ったという「原罪意識」を抱えつつ、「性」「階級」「民族」など日本の近代社会の「断層」を明らかにし、乗り越えようと試みました。



展覧会では、ご遺族から寄贈された資料(原稿、創作ノート、取材資料、書簡、書籍、雑誌、遺愛品、写真)などで森崎の生涯と思想の軌跡をたどります。

第38回特別企画展



©Troll/POPLAR ©トロール・ポプラ社/おしりたんてい製作委員会

北九州文化センター 2026年7月18日(土)～9月6日(日)

2026年は、文学館の開館20周年イヤーです。特別企画展のほか、記念イベントも開催予定です。

寄贈者・提供者
 梓書院、一条真也、井上靖記念文化財団「伝書鳩」編集室、上月ひろし、大土由美、岡山シテイミュージアム、おだじろう、尾道市文化協会、神奈川近代文学館、翰林書房、北九州文化連盟、北九州市立美術館、北九州市立松本清張記念館、紀伊國屋書店、九州産業大学美術館、近代作家旧蔵書研究会、くまもと文学・歴史館、高知県立文学館、小倉郷土会、さいたま文学館、桜川牙子、佐々木啓子、芝夏子、司馬遼太郎記念館、島田進矢、勝央美術文学館、書肆侃侃房、新宿区立漱石山房記念館、新葉館出版、関中子、全国文学館協議会事務局、多胡吉郎、調布市武者小路実篤記念館、津田美幸、鶴岡市立藤沢

共催展
 予告

第48回光草書道展 高橋睦郎の詩歌

会期：2026年4月29日(水・祝)
 ～5月6日(水・振休)
 会場：北九州市立文学館 企画展示室
 関連イベント
 石松佳さん特別講演「高橋睦郎 文字と声」
 日時：2026年4月29日(水・祝) 13時～14時30分
 高橋睦郎さんご来場！
 ※4月17日(金)から電話受付(093-571-1505)
 定員：60人

2026年3月31日発行
 北九州市立文学館

〒803-0813
 北九州市小倉北区内4-1
 TEL 093-571-1505
<https://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>

■開館時間
 9:30～18:00(入館は17:30まで)
 ■休館日
 毎週月曜日
 (月曜日が休日の場合は開館し、翌日が休館)
 年末年始

提供雑誌

藍、青嶺、馬酔木、阿蘇、花鶏、海、絵合せ、沖、鷗外、GAGA、海峡派、回游、火山地帯、季刊午前、北九州文化、九州文学、今日の花、鯨々、ココア共和国、笹、さんばあ、自鳴鐘、書聲、scd、青穂、川柳くらがね、川柳マガジン、川柳むらさき、空、鬣、天籟通信、新壘、虹野、浜木綿、ひびき、ふよう、ぼち袋、八雁、遼、りんどう

周平記念館、東京都江戸東京博物館、轟良子、ドナルド・キーン・センター、柏崎、中川由記子、中野哲次、中原中也記念館、日本近代文学館、日本現代詩歌文学館、能美茅柴、野田宇太郎文学資料館、野中亮介、萩原朔太郎研究会、原田慶子、ぴよんぴよん、文京区立森鷗外記念館、前橋文学館、増田連、松本和也、宮田俊行、森鷗外記念会事務局、山口公和、山口誓子記念館、山崎典子、脇川郁也